

目次

第2章 発達の段階に応じた体系的なキャリア教育の充実方策

学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例

【神奈川県川崎市立荏宿小学校】 2 1 1

【東京都墨田区立寺島中学校】 2 1 2

【秋田県立能代高等学校（普通科・理数科）】 2 1 3

【神奈川県立田奈高等学校（普通科）】 2 1 4

キャリア教育に関連する目標・内容及び教育活動の例

（小学校・中学校・高等学校） 2 1 5

第3章 後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の充実方策

「産業社会と人間」の取組例 2 1 8

高等学校普通科における職業教育の実践例【大阪府立布施北高等学校】 2 2 0

専門高校における職業教育の実践例

【岐阜県立岐阜商業高等学校】 2 2 1

【地域産業の担い手育成プロジェクト（熊本県）】 2 2 2

【地域産業の担い手育成プロジェクト

（茨城県教育委員会・日立商工会議所） 2 2 3

【東京都立六郷工科高等学校】 2 2 4

専門高校における施設・設備等を効率的・効果的に活用している例 2 2 5

不登校や中途退学を経験している生徒等の受入れに

対応している専修学校高等課程の例 2 2 6

第4章 高等教育におけるキャリア教育・職業教育の充実方策

高等教育段階におけるキャリア教育の取組 2 2 7

①入学前段階や入学初年次における、後期中等教育からの円滑な接続や

学びへの意欲の向上のための教育上の配慮 2 2 8

②教育課程の中に位置付けられたキャリア教育 2 3 0

③入学から卒業までを見通したキャリア教育	2 3 1
④身に付けるべき知識や能力の明確化と到達度の評価	2 3 3
⑤一人一人のキャリア形成を促進させる支援	2 3 5
⑥男女共同参画の視点を踏まえたキャリア教育	2 3 8
⑦後期中等教育と高等教育の連携	2 4 0
到達度評価（看護師）について	2 4 1
到達度評価（ホテル業）について	2 4 2
到達度評価について（大学の例）	2 4 3
到達度評価について（専門学校の場合）	2 4 4
大学・短期大学における職業実践的な教育の事例について	2 4 5

第5章 生涯学習の観点に立ったキャリア形成支援の充実

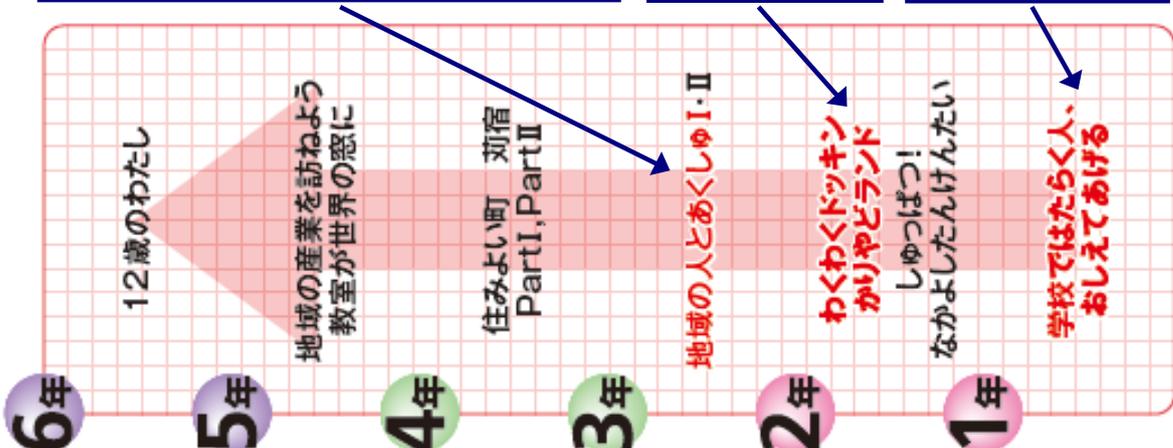
学校から社会・職業へ生活が移行した後の学習者に対する支援	2 4 8
進路が決まっていない新規高等学校卒業者に対し、教育機関を活用して職業教育 の場を提供している例	2 5 5
中途退学者や無業者などのキャリア形成のための支援	2 5 6
学校・教育委員会と地域若者サポートステーションが連携している例 【高知県「若者はばたけネット」】	2 5 8
図書館において職業に関する情報を提供している例	2 5 9

第6章 キャリア教育・職業教育の充実のための様々な連携の在り方

協議会等の設置により、キャリア教育・職業教育を円滑に進めている例 【大阪キャリア教育支援ステーション】	2 6 0
【しが学校支援センター】	2 6 1

学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例 ① ～ 神奈川県川崎市立荻宿小学校 ～

● キャリア教育の視点からの様々な教育活動の見直しと、地元商店街との連携による体系的な実践



◇ 3年生 地域の人とあくしゅ I - 商店街でお手伝い - 総合的な学習の時間 25時間

町へ出かけ、店、工場、公共施設、交通などの町の様子や特徴について調べる中で、子どもが自分の住む地域のことにあまり目を向けていないという実態が見えてきた。そこで、地元商店会の協力を得て商店での体験学習を計画し、社会科の学習を踏まえて展開した。

商店での手伝い体験は、学校や家族以外の人とかかわり方を学ぶ場としてとらえられる。商店の人やお客さんとの触れ合いを通して、自分の町のことを理解し、地域の一人としての自覚をはぐくむとともに、商店で働く人の様子や工夫・努力に実際に触れることで自分の役割を果たすことの大切さや相手のことを考えた言動の重要性などを実感し、自分の生活に生かすことを目指している。

○ 商店や手伝いについて調べよう (9時間) ○ 手伝いする商店を決めよう (3時間)

○ 商店で手伝いをしよう I・II (7時間) ○ 体験したことをまとめよう (6時間)

本単元を通して、子どもたちは達成感や自己有用感を得ることができ、地域の人々の暮らしや仕事への関心を高めることができた。

◇ 2年生 わくわくドッキン かりやどランド 生活科 10時間 特別活動 2時間

子ども祭り「ファンタジーフェスティバル(2年生・秋の学校行事)」で、1年生と協力して、自分たちで遊びやルールを考え、お客さんが楽しめるような遊びのコーナーをグループで分担して作った。当日は幼稚園、他学年、地域の人々等、様々な立場の人とかかわりを持つことができた。

◇ 1年生 学校ではたらく人、おしえてあげる 生活科 10時間

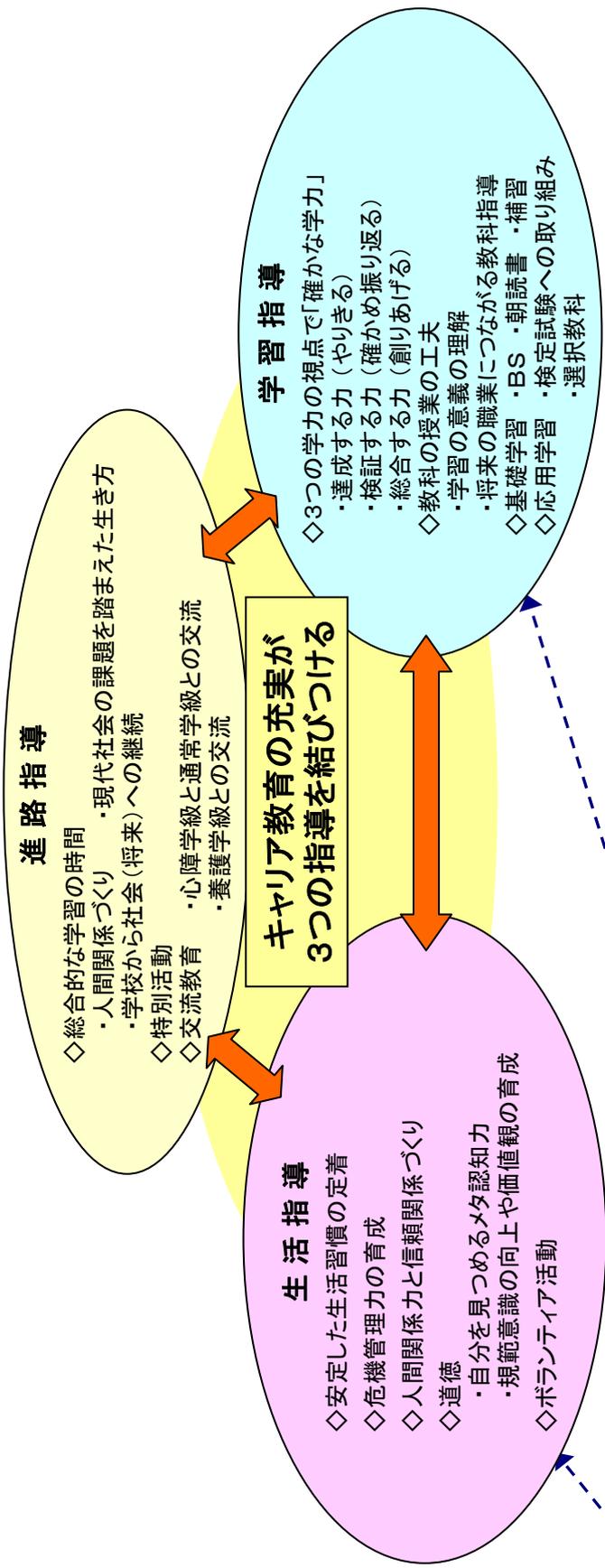
学校生活に慣れた9月、学校で働く人々についての学習を計画した。用務員、事務職員、給食調理員、栄養士、養護教諭などに、どんな仕事をしているのか、インタビューした。そして、グループごとに分かったことを発表した。この学習の後には学校で働く人々の名前を呼んであいさつをしたり、話しかけたりするようになった。

(出典) 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター

「自分に気付き、未来を築くキャリア教育」(小学校向けキャリア教育推進パンフレット) (平成21年3月) より作成

学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例 ② ～ 東京都墨田区立寺島中学校 ～

- 「現代から将来にかけて、自己の取り巻く社会の中で、自分を生かしていける生徒」「自分のよさを知り、目標を掲げて、自分を高めていける生徒」の育成を目指している。
- キャリア教育の充実により、進路指導・生徒指導(生活指導)・学習指導の3つの指導を結びつけている。



・ 将来の職業的な自立・社会的な自立を長期的な目標にすえた指導

生徒は、将来への展望を持たせることで現在の生活を振り返らせると、現在の生活の改善の意義に気づき、意図的・計画的な生活を送ろうとする

・ 学校で学ぶことが、将来、社会でどのように役立つかを理解させることを重視。

・ 教科の学習では、今、学校で学習していることと将来との関連を理解させた上での学習をさせるため、「学習の意義」を各教科まとめて一冊にして生徒・保護者に渡し、面談や学級活動での学習のガイダンスに使用するなど、「学習の意義、目的」の理解による意欲的な学習を促進。

・ 総合的な学習の時間では、テーマを「自己を生かすー今も、そして将来もー」とし、以下の視点で学習活動を組み立てる。

① 人間関係形成能力と適応能力を高める ② 生涯という長いスパンで生き方(ライフプラン)を考える

・ 道徳では、以下の点をねらいとする。

① 「自己を見つめる力」を高めさせる ② 規範意識の向上や価値観の育成

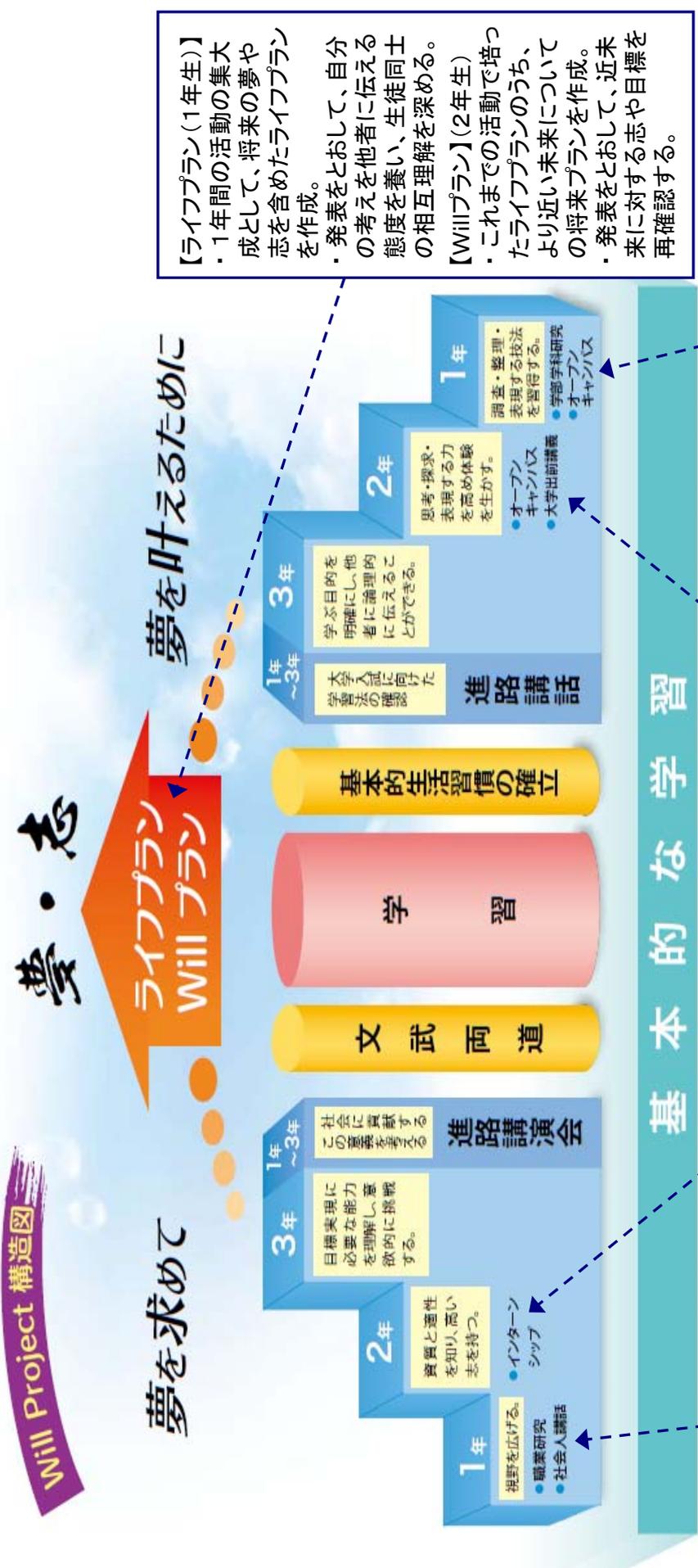
・ 特別活動では、以下の点をねらいとする。

① 集団の中で協力して課題に取り組みめる自分を作る ② 自分自身と他人のことを知る

(出典) 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター「キャリア教育 体験活動事例集 (第1分冊)」(平成20年3月)より作成

学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例 ③ ～ 秋田県立能代高等学校（普通科・理数科）～

- 生徒に「大きな夢と高い志」を持たせ、自己の可能性に挑戦する気概を育てることを目的とした取組である「Will Project」において、キャリア教育を実践。



【ライフプラン(1年生)】
 ・1年間の活動の集大成として、将来の夢や志を含めたライフプランを作成。
 ・発表をとおして、自分の考えを他者に伝える態度を養い、生徒同士の相互理解を深める。

【Willプラン】(2年生)
 ・これまでの活動で培ったライフプランのうち、より近い未来についての将来プランを作成。
 ・発表をとおして、近未来に対する志や目標を再確認する。

- ・社会で活躍している者の講話を聴き、望ましい職業観や人生観を養う。
- ・将来の夢や志、生き方や在り方を考えることで、進路選択・進学意識の向上、進路目標達成に対する学習意欲の高揚を図る。

- ・進学希望者が大多数を占めるため、高等教育機関卒業後の就職を念頭に置き実施。
- ・就業希望の分野での体験活動を通して、当該職務への理解を深め将来ビジョン構築の契機とすることや、主体的に学ぶ態度の育成を目的。
- ・生徒が、自らの夢や志を育むこと、その実現のために今なすべきことと見つめ直し具体的な行動に移すことがねらい。

- ・大学教員による講座を受けることで、学びたい分野に対する興味・関心を強くするとともに、進学意欲の高揚、学習意欲の喚起を図る。

- ・進学希望あるいは興味がある学部・学科について調査し、レポートにまとめることで、なぜその学部・学科に進学するかを考えさせ、進学意識・学習意欲の向上を図る。
- ・学部・学科の最新情報に触れながら、関連分野への興味関心を深める。
- ・夢を持たせるとともに、調査力・整理力・表現力を育成。

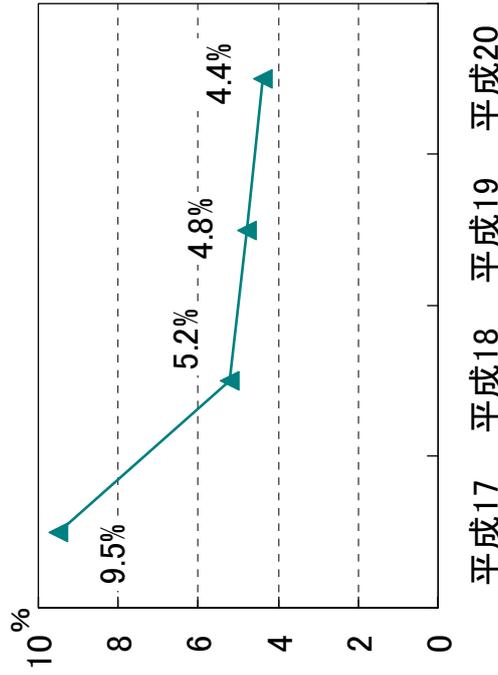
(出典) 秋田県立能代高等学校

「文部科学省指定『高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究』平成20年度 実施報告書(2年次)」より作成

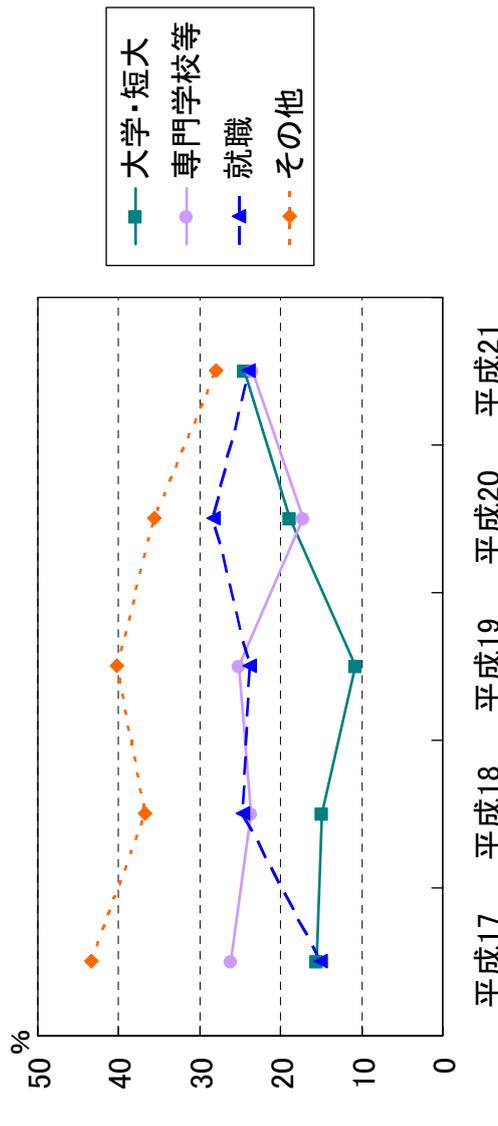
学校教育全体を通してキャリア教育を実践している例④～神奈川県立田奈高等学校（普通科）～

- 「キャリア教育の充実」「授業改善の研究」「学習を支える条件の整備」の3つを通じ、生徒の学習への意欲を引き出し、学力の向上へつなげる取組を実施。
 - 1学年の「総合A」(2単位)、2学年の「総合B」(1単位)を柱に、学校教育活動全体でキャリア教育を展開。教員と生徒が対話できる環境づくり(例:1学年教室の近くに「学年室」を置く)など一人一人の生徒に合わせたきめ細やかな指導を通じ、生徒が自らの将来に希望を持てるように支援。
- ※ 総合A … 「環境と自分」をテーマ。総合学科の「産業社会と人間」を参考に、学校独自のテキストを作成。職場見学体験や職業ガイダンス等を通じ、仕事の世界を知り自分自身の将来について考える「進路研究編」、日常生活に潜む様々な課題やリスクについて考える「生活研究編」で構成。(平成21・22年度については、「生活・進路研究活動」として実施)
- 総合B … 「インターンシップ」「専門学校実習」「アルバイトから考える(卒業生の職場を訪問)」などキャリア教育に関する講座を含めた12の講座を実施。生徒はその中から講座を選択。
- 平成21年度より、生徒も教員も学んでいることを振り返ることができ仕組みとして「ポートフォリオ」を導入。
 - 平成21年度より、神奈川県教育委員会は、「クリエイティブスクール」(学習意欲を高める全日制課程の新たな学校のしくみづくり)として指定。
 - これらの取組の実践を通じ、中途退学率や進路未決定率の低下、キャリア教育プログラムへの生徒の高い評価、生徒の学習意欲の向上などの成果が現れている。

【中途退学率の推移】



【進路状況の推移】



(出典) 神奈川県立田奈高等学校

「文部科学省指定『学力向上拠点形成事業～確かな学力育成のための実践研究事業～』平成20年度 実践研究報告(第3年次)」等より作成

特別活動	小学校		中学校		高等学校		
	学習指導要領の記述例		学習指導要領の記述例		学習指導要領の記述例		
	内容、配慮事項等	教育活動の例	内容、配慮事項等	教育活動の例	内容、配慮事項等	教育活動の例	
	<p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。</p> <p>【学級活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級生活や学習への適応及び健康安全 ・ 希望や目標をもって生きている態度の形成 ・ 望ましい人間関係の形成 ・ 清掃、給食、日直、飼育、栽培などの当番活動 		<p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。</p> <p>【学級活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級生活や学習への適応及び健康安全 ・ 自己及び他者の個性の理解と尊重 ・ 社会の一員としての自覚と責任 ・ 望ましい人間関係の確立 ・ 学業と進路 ・ 学ぶことと働くことの意味の理解 ・ 主体的な学習態度の形成と学校図書館の利用 ・ 進路選択の吟味と進路情報の活用 ・ 望ましい労働観・職業観の形成 ・ 主体的な進路の選択と将来設計 		<p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。</p> <p>【ホームルーム活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。 ・ ホームルームで学習し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。 ・ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立 ・ 学業と進路 ・ 学ぶことと働くことの意味の理解 ・ 主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用 ・ 教科・科目の適切な選択 ・ 進路選択の吟味と進路情報の活用 ・ 望ましい労働観・職業観の確立 ・ 主体的な進路の選択と将来設計 		<p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。</p> <p>【生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会の企画・運営 ・ 異年齢集団による交流 ・ 学校行事へ協力 <p>【学校行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動 ・ 飼育非営活動 ・ 地域や公共施設の清掃活動 ・ 福祉施設との交流
	<p>【児童会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童会の企画・運営 ・ 異年齢集団による交流 ・ 学校行事へ協力 	<p>【生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会の企画・運営 ・ 異年齢集団による交流 ・ 学校行事へ協力 	<p>【生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会の企画・運営 ・ 異年齢集団による交流 ・ 学校行事へ協力 	<p>【生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会の企画・運営 ・ 異年齢集団による交流 ・ 学校行事へ協力 	<p>【生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会の企画・運営 ・ 異年齢集団による交流 ・ 学校行事へ協力 		
	<p>【クラブ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラブの企画・運営 ・ 異年齢集団による交流 	<p>【クラブ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラブの企画・運営 ・ 異年齢集団による交流 	<p>【クラブ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラブの企画・運営 ・ 異年齢集団による交流 	<p>【クラブ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラブの企画・運営 ・ 異年齢集団による交流 	<p>【クラブ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラブの企画・運営 ・ 異年齢集団による交流 		

※ 中学校・高等学校において、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動は、学習意欲の向上や責任感、運動感の涵養等に資するものである。

「産業社会と人間」の取組例①

東京都立晴海総合高等学校

【目標】

- ・ 卒業後の進路や生き方について考える
- ・ 2年生からの「系列」及び「科目」を選択する考え方や態度を養う
- ・ 学ぶことの意義について理解を深める
- ・ 学び方 (Learning Skill) を学ぶ
- ・ 社会の変化を踏まえ、未来社会でも個性を発揮することを考える

【主な内容】

- ・ 班別調査学習 (発表内容の検討 → レジューメ等の資料作成 → 発表会)
→ 現代社会の課題について考える
- ・ 社会における自己の活かし方を考える
- ・ プレ課題研究(2年次)課題研究(3年次)につながる調査方法・発表表現の習得する
- ・ 職場訪問 (事前説明・職業に関する講演会 → 職場訪問 → 報告会)
→ 職業の世界(事業・組織・社会)を知る
- ・ 勤労観・職業観を育成する
- ・ 社会規範を知る
- ・ コミュニケーション能力を高める
- ・ まとめ、発表する力を高める
- ・ ライフプラン作り (自分史の作成 → 発表原稿の作成 → 発表会)
→ 自分の将来像を具体的にイメージさせ、暫定的な目標の設定をし、夢の実現に向かう行動
- ・ 現在の自分の生活を省みる
- ・ 友人のライフプランから学ぶ
- ・ お互いの個性を活かす態度を身につける

愛知県立岩倉総合高等学校

【目標】

- ・ 様々な活動(講演・調査研究・見学・体験など)を通して、自らの進路や将来のあり方について、考えを深め、より望ましい生き方を探求する

【主な内容】

- ・ 校外学習 (企業・大学の見学 → 発表会準備 → 発表会)
→ 「調べる力」「聞く力」「まとめる力」「発表する力」の土台作り
- ・ 地域の産業見学 (企業見学 → 発表会準備 → 発表会)
→ 地域の産業理解、職業と地域の関連、身だしなみやマナーの大切さなどを学び、勤労観・職業観を育成
- ・ 「社会人講師の先生を困んで」講演会
(地域の経営者との座談会・体験学習 → 発表会準備 → 発表会)
→ 今後の人生や職業を体感するとともに、様々な職業の人が社会を支えていることを理解
- ・ 研究報告書の作成・発表
→ 1年間の自分の取組や成長を客観的に振り返り、それを発表することに
より、キャリア力(人生づくりの力)の育成を図る

「産業社会と人間」の取組例②

筑波大学附属坂戸高等学校

【目標】

- ・ 様々な体験的学習を通して自己を見つめ、将来について考え、2、3年次の履修計画を作成する
- ・ 産業や社会について学び、産業の意義や使命を理解し、どうしたら社会をもっとよくなるかを考える

【主な内容】

- ・ 社会人講師の講演会、菜園づくり
→ 色々な体験を通して、自分の適性を把握する。菜園づくりを通して食の生産を含む社会の在り方を考える
- ・ 社会人講話と職場実習、上級学校見学会
→ 職業や上級学校を知り、進路を考える
- ・ 特別支援学校との交流会、福祉体験
→ 自分の立場と違う人を知り、自分を見つめ直すとともに、社会の在り方を考える
- ・ ライフプランの作成（発表準備 → 発表会）
→ 履修計画を作成する過程における考えを整理し、決意を固めるとともに級友たちの考えを知る

大分県立日田三隈高等学校

【目標】

- ・ 自分を知る、社会を知る、自分と社会の接点を知る
- ・ 「調べる力」「まとめる力」「発表する力」「聞く力」の4つの力を身につけ、これを「生きる力」に結びつける
- ・ 自ら進んで進路を選択していく能力を身につける

【主な内容】

- ・ 進路学習（職業調査・調査 → 発表準備 → 発表会）
→ 活動を通じて4つの力を養い、これまでに興味・関心の無かった職業を理解するとともに、発表会等で進路情報を共有することで、社会を知る。
- ・ 職場見学・上級学校見学
（事前調査 → 報告書作成・共有 → 見学 → 発表準備 → 発表会）
→ 職場や上級学校の実際を知ること、進路に対する視野を広げるとともに、自らすすんで進路を選択する能力を養う。
- ・ 「この人に学ぶ」
（職業人調査： “この人”の選定 → 面接調査 → 発表準備 → 発表会）
→ 個人での活動を通じて4つの力を高めるとともに、得られた進路情報を共有し、職業を通じた在り方生き方について考える。4つの力を総動員する。
- ・ 「キャリアプラン・ライフプラン」の作成（発表準備 → 発表会）
→ 1年間の学習をもとに、今後の2年間及び生涯を見据えた自己の在り方生き方をシミュレーションする。4つの力の集大成を図る。
- ・ 「3年生に学ぶ」「卒業生に学ぶ」
→ 身近な先輩に学ぶことで、自分の近未来像を描く。これからの高校生活への意欲を喚起するとともに、様々な職業についての理解を深める。

※ すべての活動において、「調べる・まとめる・発表する・聞く」ことを繰り返し、全員がホームルームで発表し、ホームルーム代表が学年発表会に臨む。（全員が主役となる）

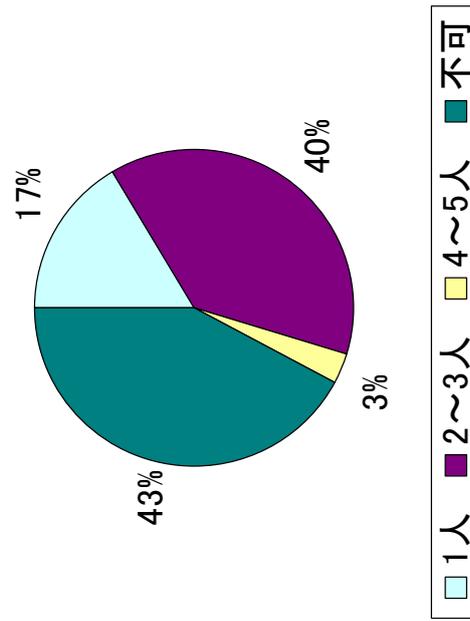
高等学校普通科における職業教育の実践例 ～ 大阪府立布施北高等学校 ～

- 就職希望者が多いことなどを背景として、平成16年度より、地元東大阪市の企業・施設の協力を得て「デュアルシステム」に取り組みることにより、「良き社会人、職業人」となるための訓練を、学校と地域の企業・施設と協働で実施。
 - 平成16年度、文部科学省「専門高校等における『日本版デュアルシステム』推進事業」において研究指定(3年間)平成18年度より、「デュアルシステム専門コース」を設置。平成21年度は、2・3年次でデュアルクラスを編成。
 - 学校設定教科「デュアル」の科目として、2年次に「デュアル実習Ⅰ」(6単位)、「デュアル基礎」(2単位)、3年次に「デュアル実習Ⅱ」(6単位)、「デュアル演習」(2単位)を開設。希望者は2年次より選択。
- ※ デュアル実習Ⅰ … 年間を通じて、週1日、企業・施設での実習を行う。実習を通じて、自らのキャリアへの意識を高め、「在学中に何を学ぶか、何をやるべきか」を考える。また、多様な価値観の中で物事を判断し、社会で生きる力をつける。
- デュアル基礎 … 実習を振り返り、自分にとっての学びを確認する。また、レポート作成やプレゼンテーションを通じて、社会で必要とされるコミュニケーション能力(聞く力、話す力、まとめる力、書く力)を養う。
- デュアル実習Ⅱ … 年間を通じて、週1日、企業・施設での実習を行う。実習を通じて、自らのキャリアへの意識を高め、自らの進路実現に向けた自己開発を積極的に行う。また、多様な価値観の中で物事を判断し、人間力を育てる。
- デュアル演習 … 実習を通じて学び得たことを、発展・発信する。また、模範的に企業の活動に参加し、経営者の視点を学ぶ。
- その他、「マナー講習会」「講演会」「プレゼンテーション講習会」などの講習・講演の開催や、「企業・施設見学」「地域のイベントへの参加」「デュアル実習発表会」などの行事を実施。

※ 実習分野別デュアル実習生徒数

	合計	保育 幼児教育	介護 福祉看護	営業 販売	製造 現業
H17	17	3	5	4	5
H18	27	10	5	4	8
H19	前期	35	7	6	9
	後期	25	7	11	12
H20	前期	22	8	11	11
	後期	20	6	12	13

【参考】企業の受入れ人数（平成18年3月）

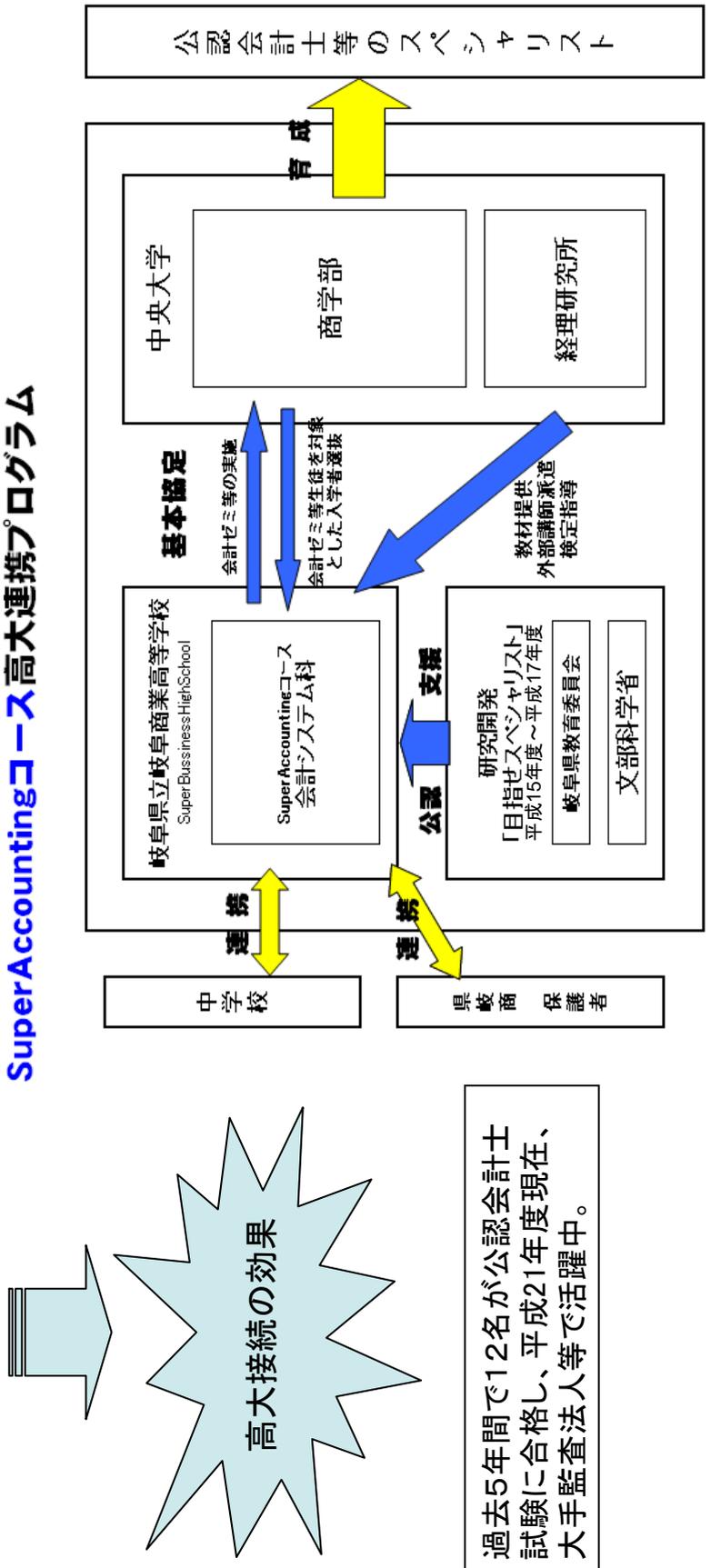


専門高校における職業教育の実践例① ～ 岐阜県立岐阜商業高等学校 ～ (卒業後更に高度な知識・技能を身に付け、将来の専門的職業人として活躍できる人材の育成)

中央大学商学部との高大接続プログラム(岐阜アカウテイングプログラム)の概要

- 日商簿記検定1級又は全経簿記検定上級合格者で、一定の評定以上の成績と学校長の推薦があり、将来公認会計士を志望する者で中央大学への進学を希望する者が中央大学が実施する「会計ゼミ」を受講。会計ゼミの成績と面接で大学への可否が判定される。これら「会計ゼミ」は大学入学後、「高等簿記論Ⅰ」2単位として認定。
- 「会計ゼミ」受講生は、商学部とは別に、公認会計士を養成する専門機関である中央大学経理研究所より出前授業や教材の提供を受けるとともに、大学進学後は、経理研究所に身を置き、公認会計士を目指し学習。
- 「会計ゼミ」の内容は、財務会計の基礎から応用、管理会計論、監査論、税務会計論、会計システム論と会計学全般の内容が実施され、すべてゼミ形式で実施。

SuperAccountingコース高大連携プログラム



過去5年間で12名が公認会計士試験に合格し、平成21年度現在、大手監査法人等で活躍中。

専門高校における職業教育の実践例② ～ 地域産業の担い手育成プロジェクト(熊本県)～ (卒業後それぞれの職業に就き、地域の産業・社会を担う人材の育成)

熊本県立菊池農業高等学校、熊本農業高等学校、阿蘇清峰高等学校の取組

事業内容

- 生徒の現場実習
望ましい勤労観、職業観を醸成するために年間に年間を通じた長期の実習を週1回、年間14回程度実施。
- 農業経営者の実践的指導
第6次産業的な先進的な視点での知識・技術等の幅広い授業を展開する。
- 教員の農業経営者等での技術研修
農業経営者での技術研修等を実施し、総合的・複合的な指導力や研究開発能力を高める。
- 地域資源を活用した商品開発等共同研究
地域資源を活用した商品開発等共同研究を充実させる。

将来像

- 地域の農業に貢献する実践的農業技術者・地域リーダー
- 地域農業界と連携・協働した共同研究等による地域活性化
- 教員の総合的な指導力及び研究開発能力の向上

3年後の自立化

- 農業関係高校12校での熊本版農業経営者等人材育成デュアルシステムの導入
- 「農業経営者育成プログラム」の定着と継続した人材育成

平成20年度の達成目標

目標

- ① 生徒の現場実習の日数
: 14日以上
- ② 農業経営者等による特別
授業の満足度: 80%以上
- ③ 地域資源を活用した新商
品等共同研究と地域課題解
決への取組: 1校1開発以上

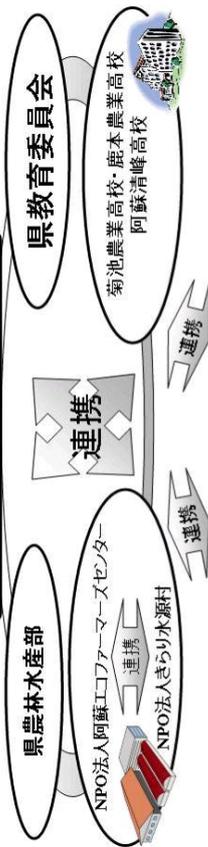
実績

- ① 3～14日
※学校によりバラツキが生じた。
- ② 90.8%
- ③ 1校1開発
菊池農業高校(ヤーコンソーセージ)
熊本農業高校(コメロンパン)
阿蘇清峰高校(湧水を活用したイチゴ栽培の基礎技術)

地域産業の担い手育成プロジェクト(熊本県農と食の人材育成プロジェクト)

- ▶ 地域農業に貢献する実践的農業技術者・地域リーダーの育成
- ▶ 地域農業界と連携・協働した共同研究による地域活性化
- ▶ 教員の総合的な指導力及び研究開発能力の向上

人材育成連携推進委員会



農業経営者、農業法人等

各校共通の取組	特色ある取組
● 生徒の現場実習	文部科学省指定農業経営者育成校として人材育成
● 農業経営者等による特別授業	農業経営者等と連携した新商品開発(米粉食品等)
● 阿蘇の農業産物の共同研究	湧水等を活用したイチゴの周年栽培、「竹」の有効活用に関する研究
● 地域資源を活用した商品の共同研究 など	

(出典) 「文部科学省、農林水産省連携事業『地域産業の担い手育成プロジェクト』平成20年度 実施報告書(1年次)」より作成

専門高校における職業教育の実践例③ ～地域産業の担い手育成プロジェクト(茨城県教育委員会・日立商工会議所)～ (体験的な学習や地域企業と連携を図った現場での長期間の実習など、実践的な教育活動を積極的に実施している事例)

茨城県立日立工業高等学校、茨城県立高萩清松高等学校
茨城県立常陸大宮高等学校、茨城県立勝田工業高等学校

取組校

事業の概要

県内屈指の工業地帯である日立地域を核として、県北の4商工会議所等が、地元工業高校等及び県教育委員会と連携し、地域のもつくりを担う人材育成を図るため、デュアルシステムを核とした生徒の企業実習、ICタグや省エネカーの研究など地元企業と一体となった事業を展開している。また、これまで繋がりの薄かった4校が、共同で小学生向けのイベントや、ワークショップを実施するなど、取組を地域全体に広げる試みを推進している。

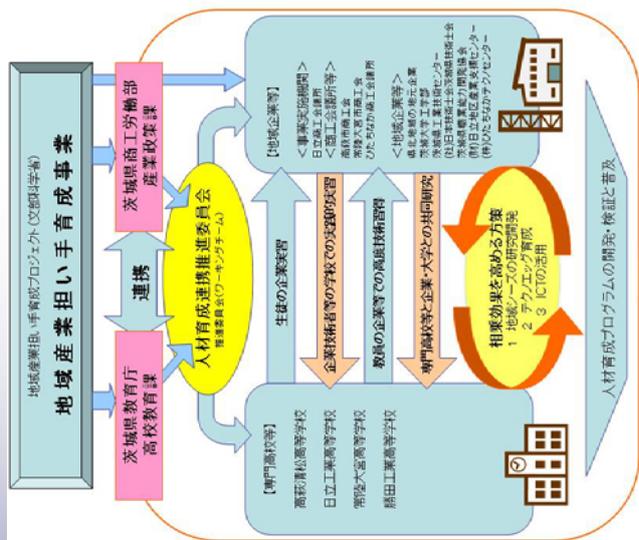
〈取組校の例〉 茨城県立日立工業高等学校

● 内容

日立工業高等学校の2年生の生徒17名が、地元企業で1年間にわたって技術実習を行った。生徒の希望に即した実習が積めるように配慮されるなど、将来の進路に役立つ技術の習得に努めた。変電器製造業の茨城電機工業(株)では、実際に製品を作る責任を伴う作業のほか、仕組みへの理解や達成感を味わうため、小型機器を独自で作る過程や社会としてのルール・職業観・勤労観についても熱心な指導がなされる。

● 成果

実習は週1回継続的に実施していることから、生徒の技術・技能・職業観の向上や、成果発表会に見られるコミュニケーション能力の向上などがあった。また、生徒及び高等学校との受け入れ企業に良好な関係が築かれつつあり、実習以外の学校の取り組みにも企業の協力が得られるなど高等学校と地元企業にとって、新たな協力関係が生まれはじめている。この取り組みは、事業全体の核となる取り組みで、茨城県の広報TV番組でも紹介された。



いばらきの将来を担うものづくり人材の育成



(出典) 「平成20年度 中小企業ものづくり人材育成事業(工業高校等実践教育導入事業)」に係る成果事例集」(経済産業省中小企業庁)より作成

専門高校における職業教育の実践例④ ～ 東京都立六郷工科高等学校 ～ (体験的な学習や地域企業と連携を図った現場での長期間の実習など、実践的な教育活動を積極的に実施している事例)

事業の概要

- 産業界と高校とのパートナーシップを深め、協同して人材育成を行う職業教育。
- インターンシップよりも長い期間、ものづくり企業での就業訓練を行い、学校外における学修として単位認定される。
- 企業と生徒の双方が合意すれば、卒業後にその企業へ就職することも可能である。

1年次前期に数多くの企業見学を導入し、働く事への「動機付けを十分に行った上で、就業訓練を段階的に行っている。



(企業における学習風景の例)



金属絞り技術を学ぶ高校生



精密加工技術を学ぶ高校生

企業との連携のポイント

- 高卒者の採用を見込んでいる地区内企業の中から本枠組の参加を募っている。
- 生徒は実習する企業での就職を視野に入れて、実習企業を選定する。
- 定期的に高校教員が企業を訪問し、企業実習について連絡調整を行っている。
- 実習に参加した全生徒による成果体験発表会に実習受入企業も参加している。
- 長期就業訓練実施に際して指導・助言を得るため、学校関係者、大田工業連合会代表、実習受入企業代表、学識経験者、都教育委員会、都産業労働局で構成するデュアルシステム推進委員会を設置し、実習内容の改善を図っている。

導入の効果

- 勤労観・職業観が身につく、進路決定も積極的になる。
 - 実践的な技能・技術が身につくとともに、学校での基礎的な学習の大切さに気づく。
 - 挨拶、コミュニケーション・プレゼンテーション能力が早い段階から身につく。
 - より自分の能力を生かせる企業に就職できる(ミスマッチの減少)。
- 生徒受入れにより職場に活気が出るとともに、受入れのための研修により、社員の能力向上につながる。
 - 採用時におけるミスマッチが少なくなり、早期離職を回避できる。
 - 実践的な技能・技術を有するため、入社後の育成期間が短縮できるとともに、後継者が確保できる。
 - 受入れ生徒の安全確保のため、「災害ゼロ」が達成される。

生徒

企業

(資料提供)東京都教育委員会

専門高校における施設・設備等を効率的・効果的に活用している例

専門高校の拠点校整備（広島県教育委員会）

県立高等学校再編整備基本計画（関連部分）

●拠点校の整備

農業・工業及び商業の各学科については、地域的なバランスを考慮しながら拠点校化し、普通科や総合学科も含めた本県における職業教育のセンター的な機能を持たせるため、学科の改編を含めた教育内容の見直しを行うとともに、最新の施設・設備を重点的に整備

拠点校の目指す教育

●生涯にわたり学び続ける意欲をもったスペシャリストの育成

- 産業の高度化に対応した、専門性の習得
- 高度な資格取得
- 上級学校への進学
- 県内企業への人材供給
- 県内の職業教育のセンター的役割

学校名	整備年度	整備内容	センター的役割例
広島工業	平成16	レーザー加工機整備 3次元測定器整備 等	工業高校生等対象 の技術講習会 等
西条農業	平成17	動物科学棟建築	動物バイオに係る 研修会 等
福山工業	平成18	レーザー加工機整備 NC旋盤教育システム 等	地域の高校生等に 拠点校設備公開 等
庄原実業	平成19	園芸用温室及び実習棟建築 太陽光発電パネル設置工事	他校への先端技術 等の提供
広島商業	平成19	販売実習室及び販売実習の ための付属設備整備	中学校出前授業 等
尾道商業	平成20	販売促進実習のための模擬 オフィス等の整備	中学生の販売実習 等

県を越えた同一学科の連携（栃木県と茨城県の水産高校）

連携校の現状

- 栃木県立馬頭高等学校
 - ・ 全国唯一の淡水魚を主とした栽培漁業を行う水産科を有する普通科との併設校
- 茨城県立海洋高等学校
 - ・ 本科4クラス（海洋技術科、海洋食品科、海洋情報科、海洋工学科）及び専攻科を有する水産科単独校
 - ・ 全国でも有数の水深10メートルの潜水プールを整備。

連携の内容等

茨城県の施設・設備を活用した馬頭高等学校の実習内容

●水産基礎の基礎実習（1年次）

- 1 目的
船と海に対する理解を深めさせるとともに、河川では実施できないカッターを主とした実習を行うことにより集団の一員としての協調性を養う。
- 2 内容
カッター、潜水、ロープワーク
- 3 使用施設・設備
茨城県立海洋高等学校所有のカッター、潜水プール、潜水機材等

●潜水実習（3年次）

- 1 目的
ダイビング（潜水）に関する基礎的な知識と技術についての指導を行うことで、ダイビングの概要を理解させ、栽培漁業や海洋環境等に生かす術を身に付けさせる。
- 2 内容
高等学校潜水検定3級（民間のBasic Diverクラス）の内容に沿って実施。
- 3 使用施設・設備
茨城県立海洋高等学校所有の潜水プール、潜水機材等

不登校や中途退学を経験している生徒等の受入れに 対応している専修学校高等課程の例

【生蘭学園生蘭高等専修学校】 神奈川県綾瀬市

(取組内容)

- 「中学校時代欠席が多かった生徒や学習面でつまづきのある生徒を対象にした「適応コース」を設置。同コースにおいて、少人数制の個々の状況・特徴に応じた多様なクラスを開設。
- ・適応クラス・・・1クラス16名～20名の少人数で、対人関係が苦手であったり、中学校時代欠席が多かった生徒が、基礎学習から応用力まで力を伸ばすことを目標とする。
- ・学習開発クラス・・・1クラス16名～20名の少人数で、基礎学習の定着を目標に、一つ一つの学習を丁寧に実施する。
- ・基礎クラス・・・1クラス25名～30名の普通学級。学習の基礎的内容の復習から開始し、着実に基礎力を高める。

【岩谷学園高等専修学校】 神奈川県横浜市

(取組内容)

- 「中学校で欠席が多かった」、「コミュニケーションが苦手」等の特徴をもつ生徒のために、生徒が学校の学習・生活の流れにスムーズに乗れるよう、放課後学習・個別指導の場(「アップルーム」)を設置・常時開放し、サポートを実施。
- 一人一人の進路・目標を見据え、生徒の基礎学力の定着や技能修得(各種検定・資格試験)に向けた特別授業(「ダブルアツプ」)を実施(週1回)。
- スクールカウンセラーを配置し、生徒の学校生活における悩みや保護者からの相談に対応。

【武蔵野東技能高等専修学校】 東京都武蔵野市

(取組内容)

- 編入学試験、編入学枠の設定など、高等学校等中退者向けの受入れ体制を構築。
- 1クラス35人前後、かつ、習熟度別の学級編制。1クラスに担任・副担任の2人の教員を配置し、生徒一人一人の個性・適正を踏まえつつ、きめ細やかな指導を実施。